

# 宴の前語りと後語り

私が担当したUna Tarde Peruanaの宣伝とその結果を以下に述べていきます。

## 《前語り》

### 【キッカケ】

このイベントの宣伝を私が受け持ったきっかけは、友人からの誘いでした。友人からこのイベントの運営のミーティングに参加するだけではないからと言われ、興味本位で打ち合わせに参加しました。打ち合わせで話を聞く前は、簡単な客集めや当日のセッティングのみだけかと想像していました。実際に詳しい話を聞いてみると、ポスターや立て看板作りなど想像していた以上に、本格的な作業で私にできるの不安でした。その一方で、広告の仕事に携わりたいという将来の夢があったので、良い機会だとも思いました。最終的に卒業まであとわずかであ

ったので大学での思い出作りも兼ねて、このイベントの宣伝に挑戦しました。ただ、このミーティングが開催日の二週間前であったので、引き受けた時点から焦燥感を感じながら作業を開始しました。

### 【チラシ&ポスター作製】

いずれの宣伝に使うモノも期限が間近であったので、制作を同時並行して進めました。まず配布用のチラシに関しては、打ち合わせ後に早速自分なりに考えたラフを作成して、その日のうちに後藤先生と菊田先生に拝見してもらい、このイベントのアピールポイントを確認した上で、二パターンのチラシを作成しました。『一パターン』は、一、二年生向けにイベントの最後で登場するペルー料理を前面に出し、取

スペイン語学科 4年 坂橋 史浩  
(ペルーの夕べ 宣伝担当)

っつきやすい内容にし、一方で『二パターン』は、三、四年生向けに今回のイベントのきっかけとなったノーベル文学賞を受賞したペルーのバリガス・リヨサを強調した少し硬めの内容の二種類を用意しました。そして翌週の月曜日に友人の協力を得て、ネイティブのクラス計十六クラスに直接向い、授業開始前にチラシを配布し、スペイン語学科の学生に向けてイベントの宣伝を行いました。

次にポスターは、チラシよりも時間的な余裕はありましたが、出来る限り早く掲示しなければ、宣伝効果が低くなりポスターを作成する意味がなくなってしまうので、ポスターもチラシと同様に早々に作成し始めました。ミーティングの直後にイラストが得意な友達と共にポスターのコンセプトについて話し合い、翌々日には



▲宣伝ポスター

イラストが完成しました。私の個人的な考えとして、ペルーらしさを出すよりも今回のイベントを一目見て理解できるユニークなモノにしたかったので、『ペルー料理とバリガス・リヨサを味わう』というコンセプトのもとで、お皿の上に本と南米大陸をかたどったシオリをのせて両脇にナイフとフォークを配したイラストを友人に描いてもらいました。次に言語研究センター教材開発室の方々にご指導をいただきながら、このイラストを下絵にポスターを作成し始めました。私はポスターの制作が初体験だった

ので、印刷用紙の種類や印刷した後の色合い等完成に至るまでにチェックする点がたくさんあったと知り、とても多くのことを発見することができました。私と友人が共同して作ったポスターは、教材開発室の方々にも好評だったので、掲示するのが楽しみでした。そして、イベントの一週間前に右往左往しながらも何とか完成にこぎ着き、その日内に大学内の目につく場所に掲示を開始しました。また、学内だけでなく、大学周辺のお店計七店舗にポスターの掲示に協力をいただき、学外の方々に向けても宣伝しました。

### 【イベント直前】

イベントの三日前から当日に使用する備品を作成し始めました。特にこだわったのが、『立て看板』でした。というのもこのイベント名が、Una Tarde Peruanaという横文字である一方で、使用する看板が縦長であったので、レイアウトを工夫する必要がありました。そこで、単語を横につなげずに単語ごとに切って印刷し、ひとパーツ毎に段ボールを裏張りし、断面を厚くして、立体的にしました。それら各パーツを横向きにし、斜めにずらしながら看板に貼り、ユニークな立て看板に仕上げました。

イベント当日は、会場で使用するプログラムを作ったり、会場となる十七号館が複雑な構造になっていたため館内に誘導の貼りチラシを貼ったりと、当日の運営が少しでもスムーズに進むように開始前に出来るだけのことをしました。そして、いよいよ私の仕事の成果が明らかになる時がきました。

### 《後語り》

#### 【宣伝の結果】

会場前のセッティングが全て終了し、会場となる十七号館二二五教室の扉を開けると驚きでした。立ち見客ができるほど会場内が埋まり、



▲会場を埋める来場者

熱気がブンブンだったからです。予想以上の来場者数で、それまで必死に取り組んできたことが報われた気がしました。来場者の具体的な所属は、分りませんが見たところでは、スペイン語学科の一年生から四年生までまんべんなく来ていたので、宣伝を一部に偏らずに均等に伝えることができ、自分の役目を果たすことができたと思えました。

### 【反省点・改善点】

今回のイベントの宣伝を含めた反省点と改善点が三つあります。第一に会場を来場者で埋めることはできましたが、スペイン語学科生以外の来場者をほとんど見ることが出来なかったのが、他学科生や学外の一般の方向けにも宣伝をするべきだったと反省しています。学外でチラシを配布したり、ポスターをより多くの店舗に掲示してもらおうように依頼しに行ったり、twitterを活用して宣伝したりとより多種多様な人々に向けて宣伝をすべきだったと思いません。

第二にステージの転換がスムーズにいかなかった点です。特に目立ったのが、スピーチコンテストからUna Tarde Peruanaへの転換です。予定の時間を押していたとは言え、会場内の模

様替えや来場者の再度の受付等がスムーズにいかず、来場者に迷惑をかけてしまった点が多々あったと思います。今回のように運営者が切り替わる時は、司会者同士が事前に打ち合わせをし、スムーズな転換できるようにすべきであった。また他のスタッフも司会者と共に綿密に段取りを練っておくべきだったと思います。

第三に当日の運営者や盛り上げ役の人々への食事のケアです。今回のように時間的に遅いイベントの場合、開演中に食事の取れない関係者には、事前に軽食を用意してあげたほうがいいと思います。というのも、スタッフや盛り上げ役の一部の方から終演後に食事が全く取れなかったと不満を聞いたからです。有志で参加しているとは言え、せっかく運営に参加してもらっているのです、彼らにも気持ちよく仕事をしてもらった方が、次回も協力を得られると思うからです。

### 【まとめ】

今回のイベントで宣伝を担当し、結果として多くの方々に来場していただき、私の使命を果たすことができたと思います。しかし、準備に費やせる時間が短いにもかかわらず、ここまでの成果を生み出したのは、私だけの力ではな

く、多くの友人の協力と後藤先生、菊田先生、青木先生からのご指導があったからだと思います。協力をいただいた方々には、本当に感謝しています。ありがとうございました。

南米の一国であるペルーに注目した今回のイベントのように、ラテンアメリカの文化を肌で感じることで、スペイン語学科がより盛り上がり、そして、スペイン語学科がより盛り上がると思います。また、このイベントと同様に学生主体のイベントをますます開催し、スペイン語学科の魅力を学外に宣伝してほしいと思います。



▲ペルー料理を楽しむ人々